

京都府府民生活部 人権啓発推進室 御中

ご報告書 人権啓発の取組に関するインターネット調査

〈 抜 粋 〉

2013年2月27日



## 調査実施概要

### 調査目的

平成24年度に実施した人権啓発活動を対象にインターネットモニター調査を実施し、効果的・効率的に事業を実施する上で参考となる情報を得るとともに、府政運営の指針である「明日の京都」中期計画等に係る調査を実施し、進行管理に資する。

### 調査方法

- ・調査対象 京都府在住の15～69歳 男女(70歳以上の回答は得られなかった)
- ・サンプル数 1,500サンプル
- ・調査方法 インターネットリサーチ(調査会社の保有するモニターを利用したネットリサーチ)
- ・調査期間 2013年 2月1日(金)～2月4日(月)
- ・調査協力会社 ネットエイジア株式会社

### サンプル数

|    | 10代以下 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 |
|----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男性 | 19    | 158 | 164 | 164 | 164 | 81  |
| 女性 | 18    | 162 | 164 | 164 | 164 | 78  |

※10代以下・・・調査モニターは15歳以上で構成されているため、このセグメントには15歳～19歳の対象者が該当

※10代以下男性、10代以下女性のセグメントはサンプルサイズが少ないため、参考値として扱う

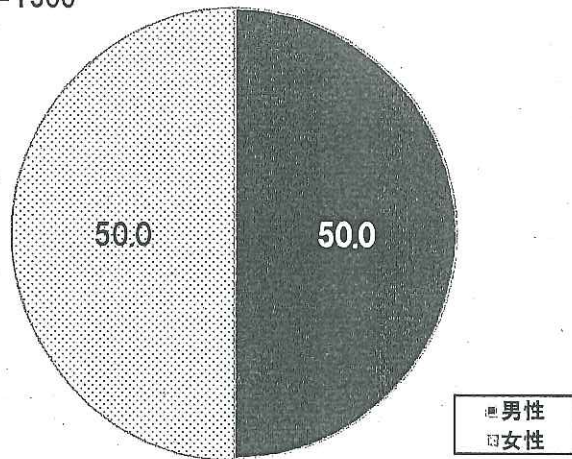
| 北部地域(福知山市・舞鶴市・綾部市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町) | 中部地域(亀岡市・南丹市・京丹波町) | 京都市地域(京都市) | 南部地域(宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・木津川市・大山崎町・久御山町・井手町・宇治田原町・笠置町・和束町・精華町・南山城村) |
|--------------------------------------|--------------------|------------|---|
| 104                                  | 74                 | 931        | 391   |

※分析に当たり、一部の設問については、平成23年度に実施した「新京都府人権教育・啓発推進計画」に関する府民調査(以下、「府民調査」と記載)と比較している。なお、「府民調査」については、今回調査と異なり、郵送調査の手法をとっている。

# 回答者属性

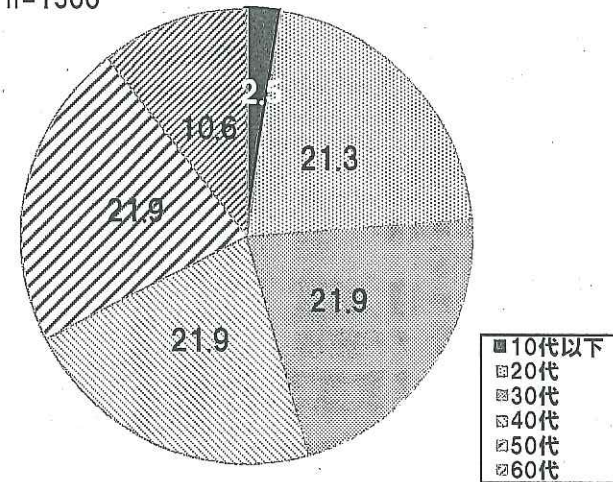
## 性別

n=1500

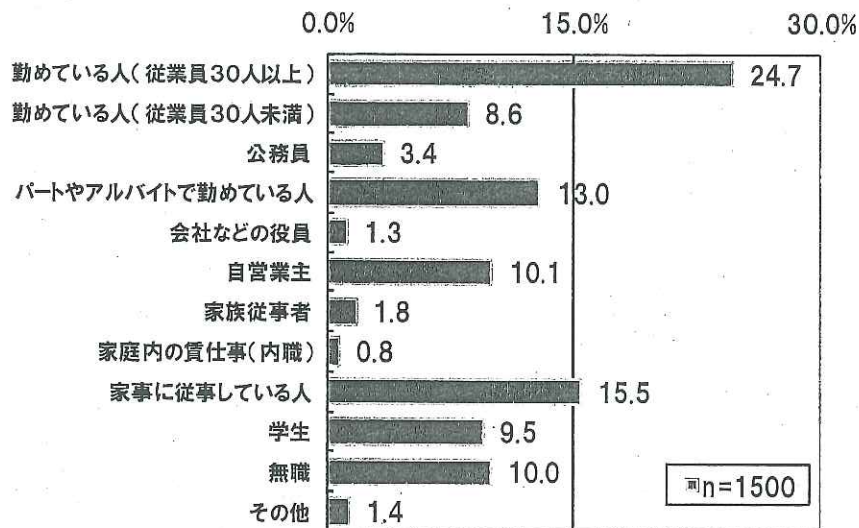


## 年代

n=1500

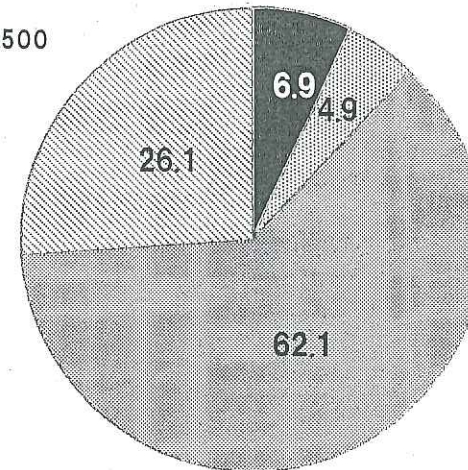


## 就業状況



## 居住地域

n=1500



■ 北部地域(福知山市・舞鶴市・綾部市・宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町)

■ 中部地域(亀岡市・南丹市・京丹波町)

■ 京都市地域(京都市)

■ 南部地域(宇治市・城陽市・向日市・長岡京市・八幡市・京田辺市・木津川市・大山崎町・久御山町・井手町・宇治田原町・笠置町・和束町・精華町・南山城村)



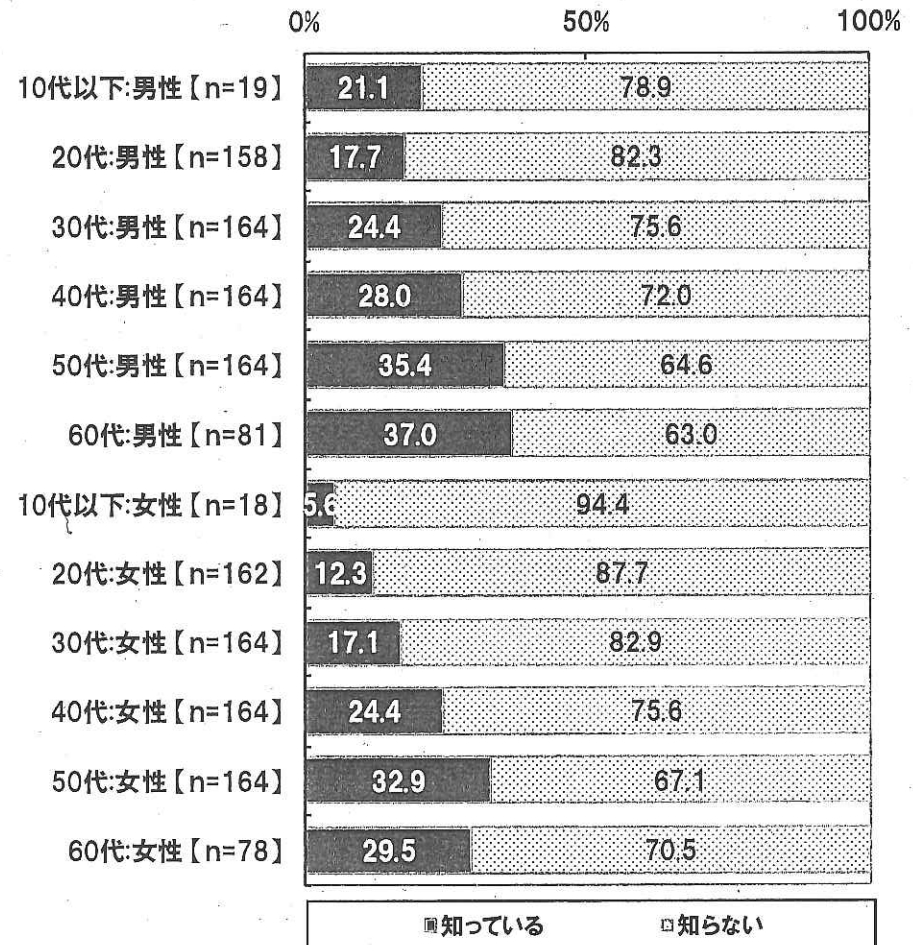
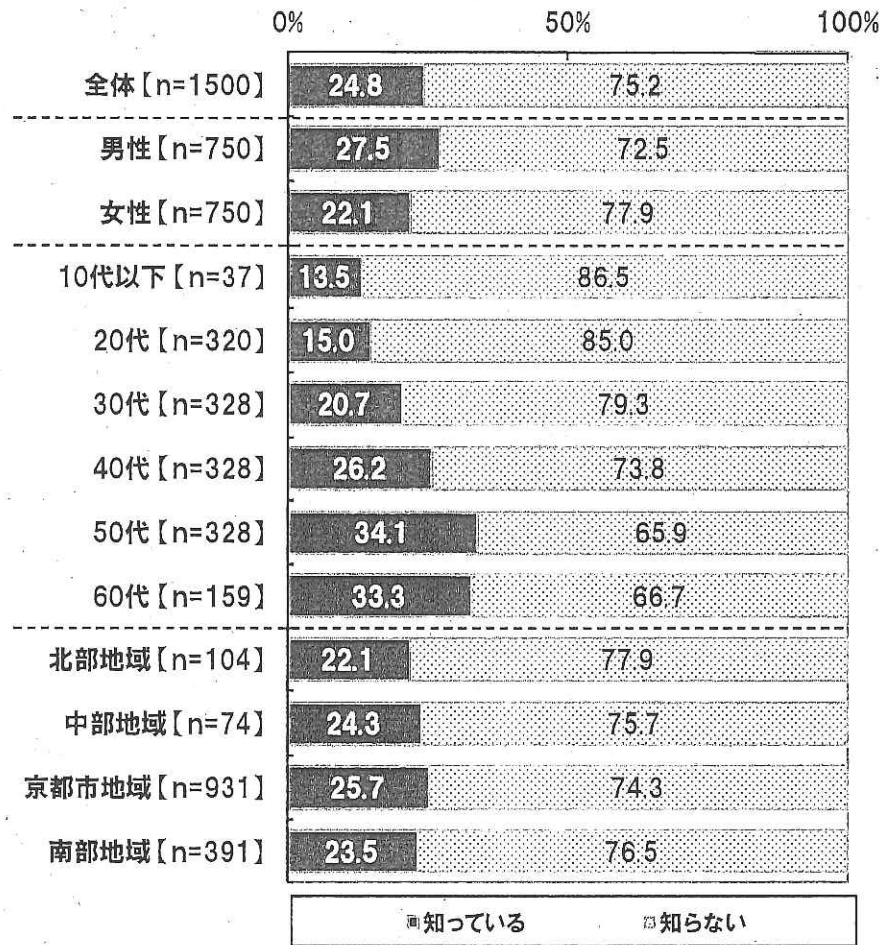
### 1-1. 取組認知(人権啓発の取組を実施していること)

京都府が人権啓発の取組を実施していることの認知率は24.8%（「知っている」の割合）となり、およそ4人に1人の割合となっている。

男女別では、男性は女性よりも5.4ポイント認知率が高くなっている（男性27.5% > 女性22.1%）。

年代別では、高い年代ほど認知率が高い傾向。20代以下の認知率は1割強（10代以下：13.5%、20代15.0%）に留まる。対して、50代以上では3割強（50代34.1%、60代33.3%）の認知率となっている。

エリア別では、特筆すべき傾向は見られない。





2-1. 広告評価(5月新聞意見広告「みんな、大切なひとり。」)

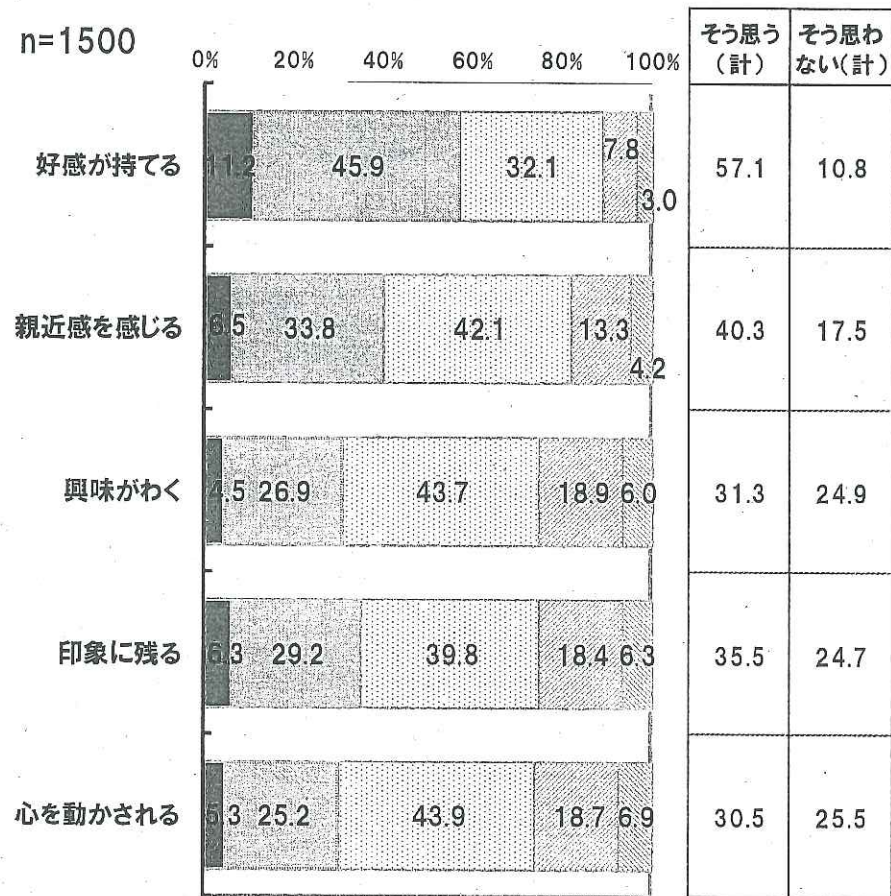
5月新聞意見広告「みんな、大切なひとり。」に対する広告評価は、『好感が持てる』57.1%、『親近感を感じる』40.3%、『興味がわく』31.3%、『印象に残る』35.5%、『心を動かされる』30.5%となっている(それぞれ『そう思う(計)』の割合)。

評価項目全てにおいて、『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』を上回り、『好感が持てる』の項目は過半数が、『親近感を感じる』の項目は4割が同意している。

提示画像 <5月新聞意見広告「みんな、大切なひとり。」>



n=1500



非常にそう思う   
  ややそう思う   
  どちらとも言えない  
 あまりそう思わない   
  全くそう思わない





2-3. 広告評価(9月新聞意見広告「人権啓発に関する座談会」)

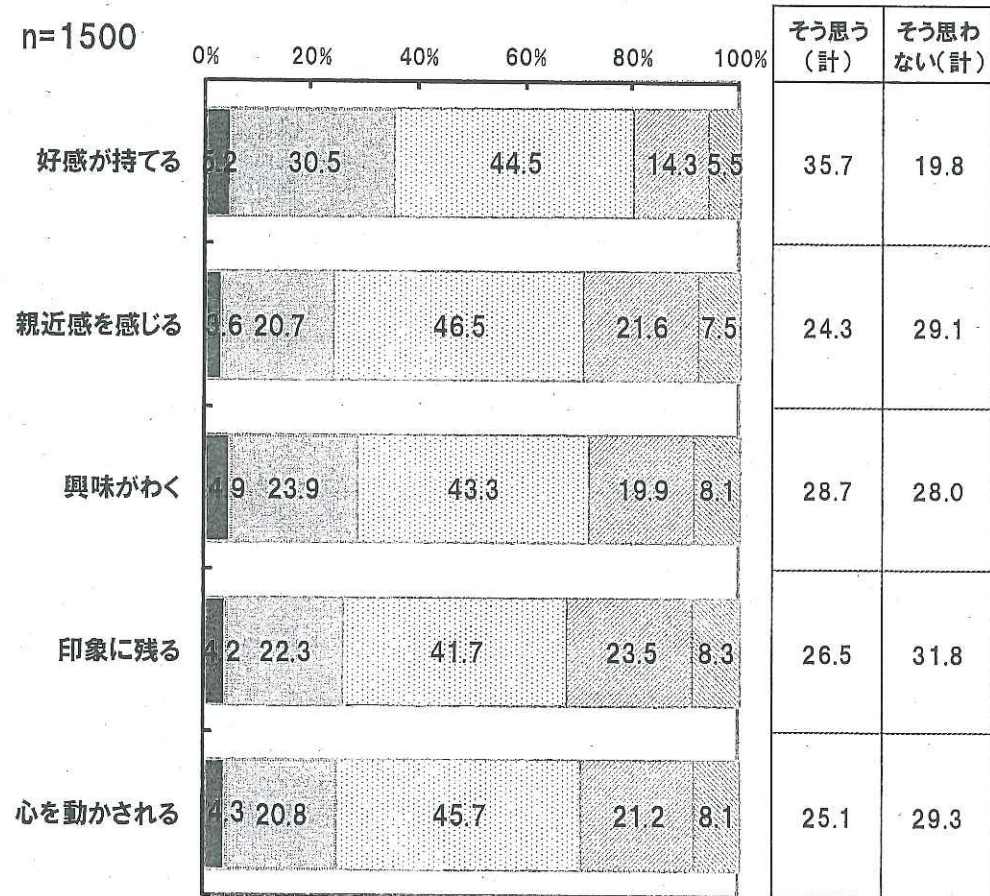
9月新聞意見広告「人権啓発に関する座談会」に対する広告評価は、『好感が持てる』35.7%、『親近感を感じる』24.3%、『興味がわく』28.7%、『印象に残る』26.5%、『心を動かされる』25.1%となっている(それぞれ『そう思う(計)』の割合)。

『好感が持てる』の項目では『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』を上回っており、『親近感を感じる』『興味がわく』の項目では同水準で拮抗、『心を動かされる』『印象に残る』の項目では『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』下回っている。

提示画像〈9月新聞意見広告「人権啓発に関する座談会」〉



n=1500



非常にそう思う                       ややそう思う  
 どちらとも言えない                 あまりそう思わない  
 全くそう思わない



## 2-4. 広告評価(12月新聞意見広告「ネットいじめ」)

12月新聞意見広告「ネットいじめ」に対する広告評価は、『好感が持てる』37.5%、『親近感を感じる』30.5%、『興味がわく』48.3%、『印象に残る』42.1%、『心を動かされる』36.7%となっている(それぞれ『そう思う(計)』の割合)。

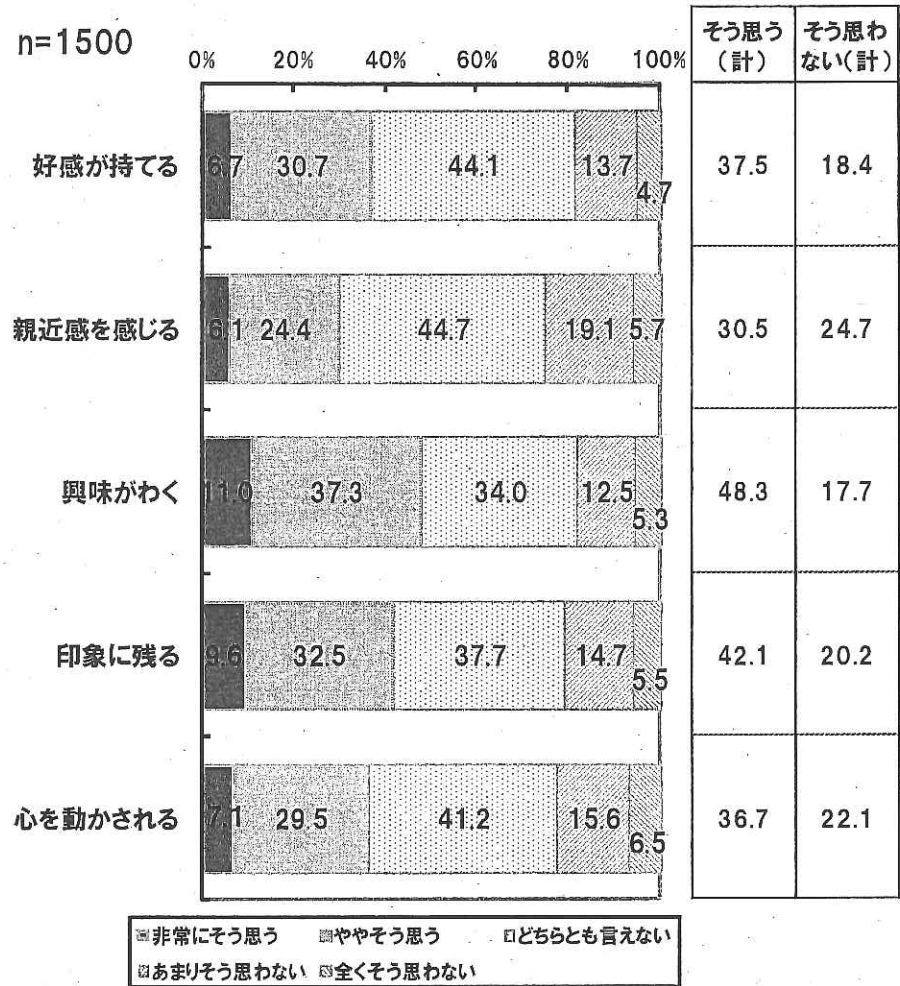
評価項目全てにおいて、『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』を上回り、『興味がわく』の項目は5割弱が、『印象に残る』では4割強が同意している。

### 提示画像〈12月新聞意見広告「ネットいじめ」〉

今、子どもたちに起きている「ネットいじめ」とは？



n=1500





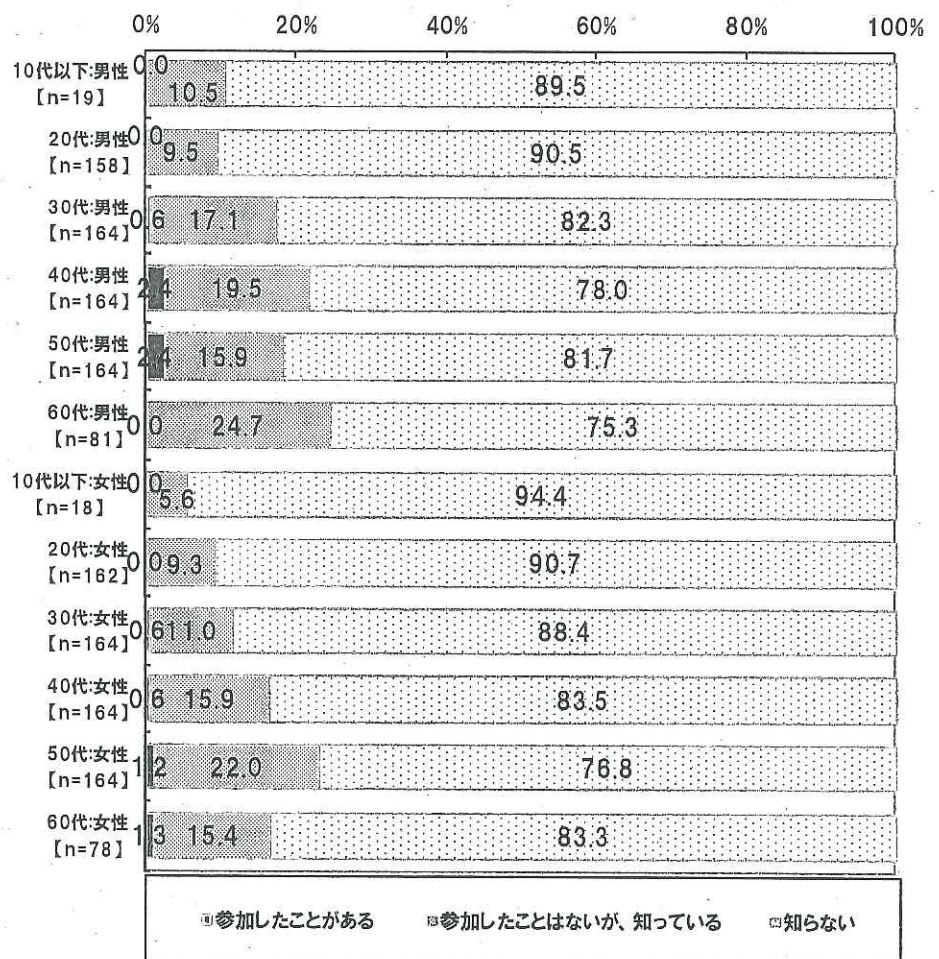
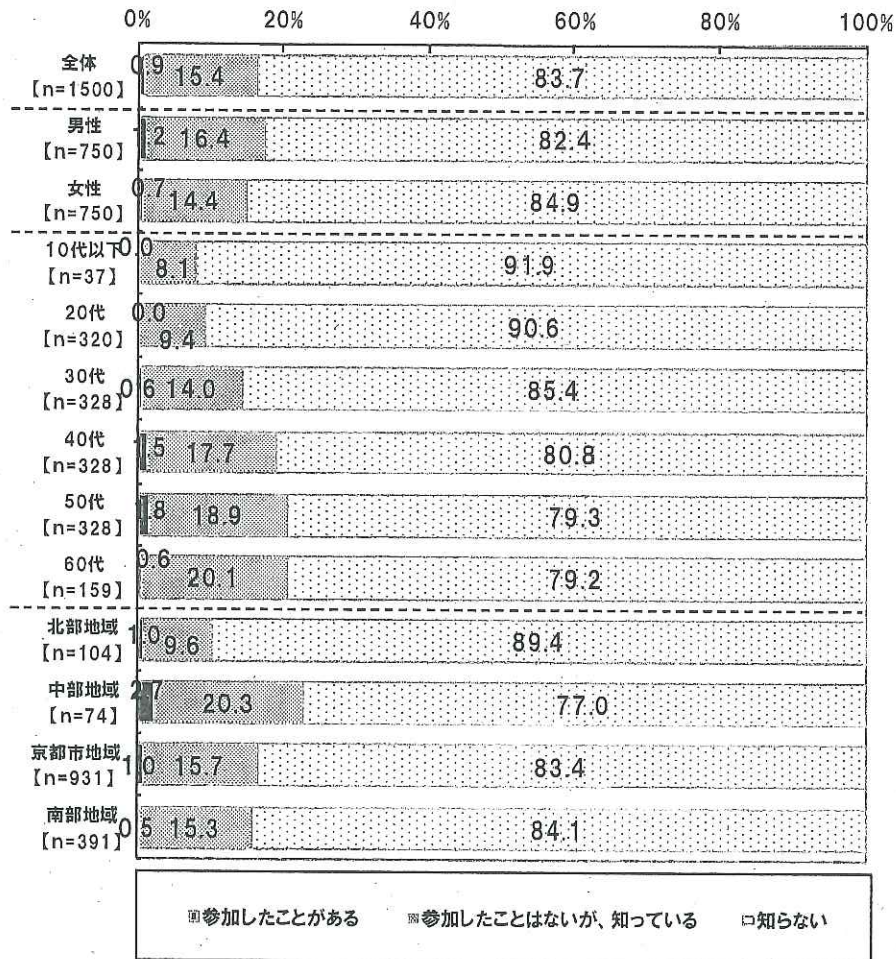
### 3-1-1. イベント認知・参加状況(京都ヒューマンフェスタのような総合的な人権啓発イベント)

京都ヒューマンフェスタのような総合的な人権啓発イベントを開催していることの認知率は16.3%（「参加したことがある」0.9%と「参加したことはないが、知っている」15.4%の合計）となっている。

年代別では、高い年代ほど認知率が高い傾向。20代以下の認知率は1割未満（10代：8.1%、20代9.4%）に留まる。対して、40代以上では2割（40代19.2%、50代20.7%、60代20.7%）の認知率となっている。

エリア別では、中部地域は全体よりも6.7ポイント認知率（23.0%）が高くなっている。

性別では、特筆すべき傾向は見られない。



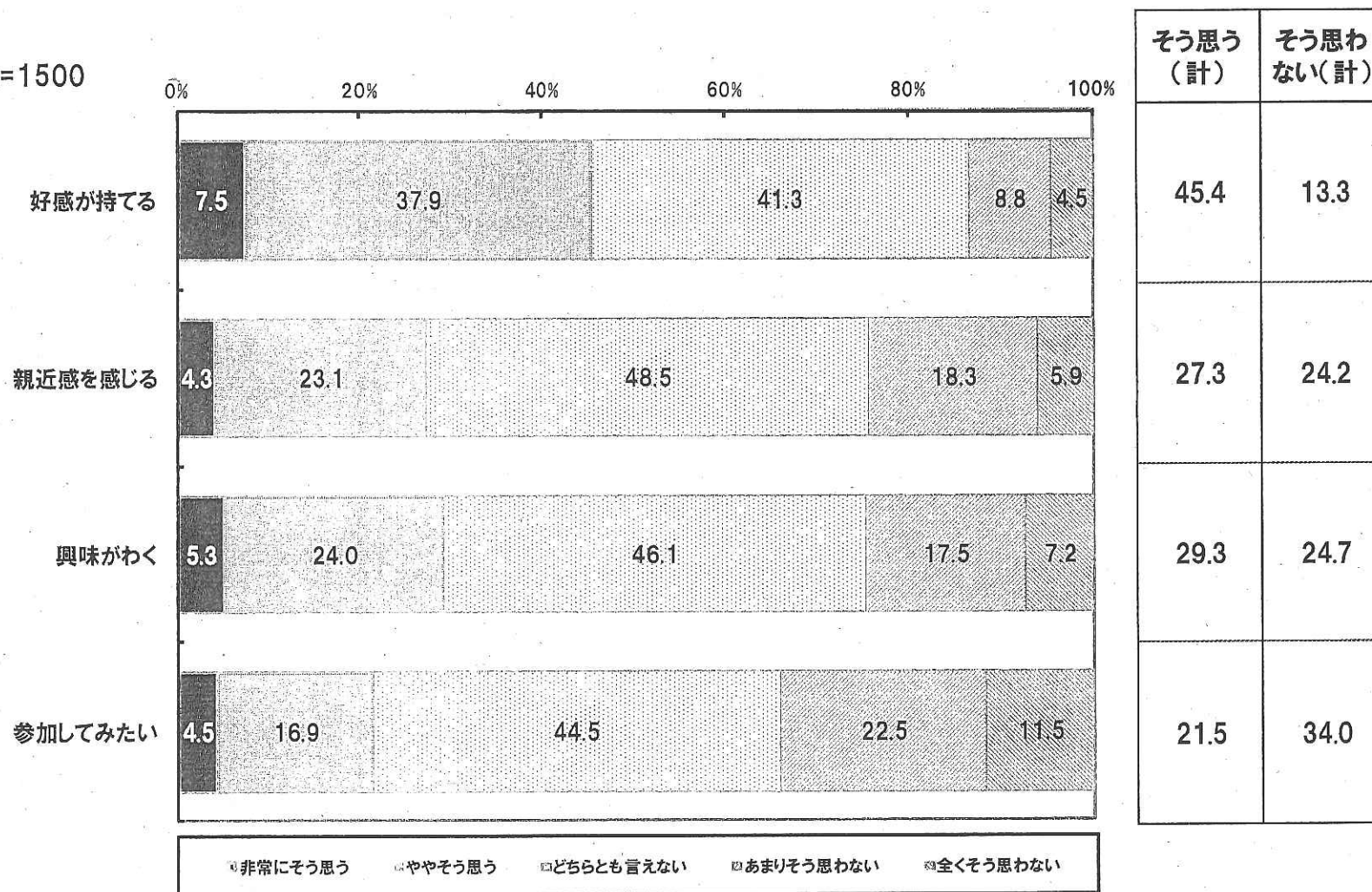


### 3-1-2. イベント評価 (京都ヒューマンフェスタのような総合的な人権啓発イベント)

京都ヒューマンフェスタのような総合的な人権啓発イベントに対する評価は、『好感が持てる』45.4%、『親近感を感じる』27.3%、『興味がわく』29.3%、『参加してみたい』21.5%となっている(それぞれ『そう思う(計)』の割合)。

『好感が持てる』の項目では『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』を上回り4割半が同意している。『親近感を感じる』『興味がわく』の項目では『そう思う(計)』と『そう思わない(計)』が同水準で拮抗、『参加してみたい』の項目では『そう思う(計)』が『そう思わない(計)』を下回っている。

n=1500

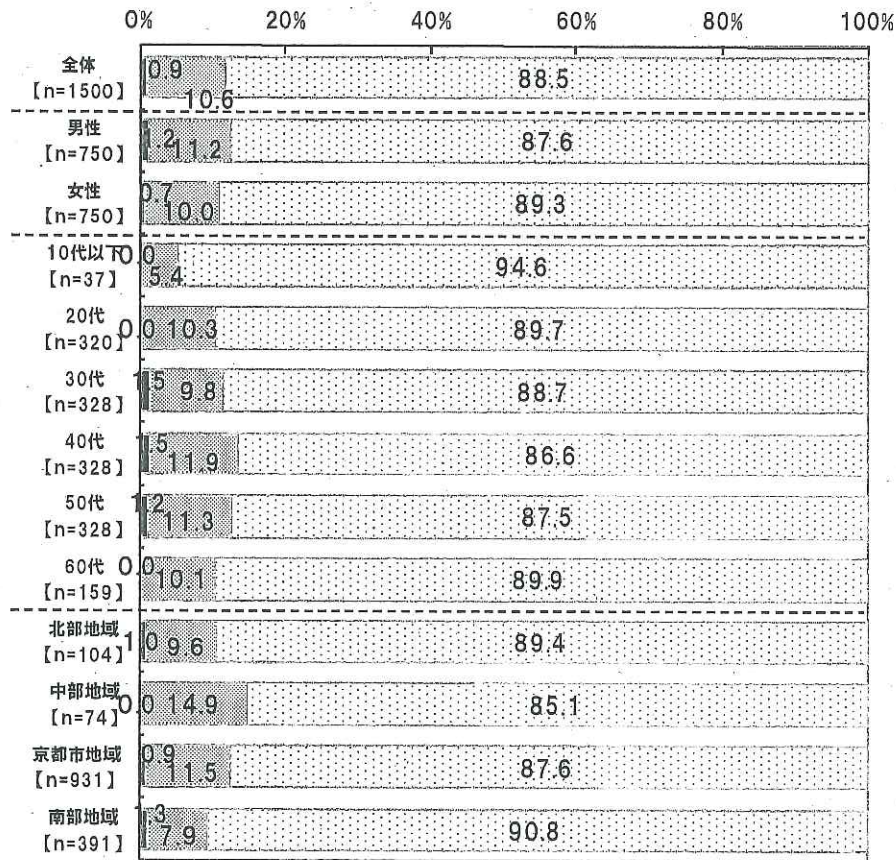




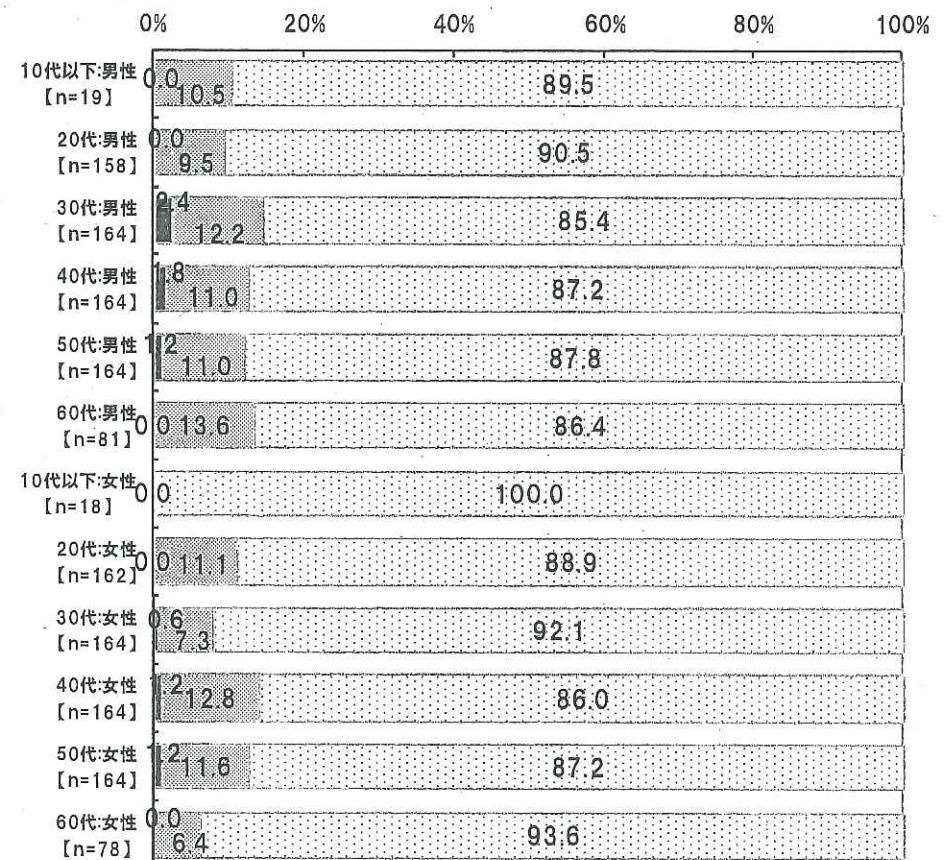
### 3-2-1. イベント認知・参加状況 (大学生が企画・運営する「HUMAN LIVE KYOTO」)

大学生が企画・運営する「HUMAN LIVE KYOTO」の認知率は11.5% (「参加したことがある」0.9%と「参加したことはないが、知っている」10.6%の合計) となっている。

性別・年代別・エリア別それぞれで特筆すべき傾向は見られない。



■参加したことがある   ■参加したことはないが、知っている   □知らない



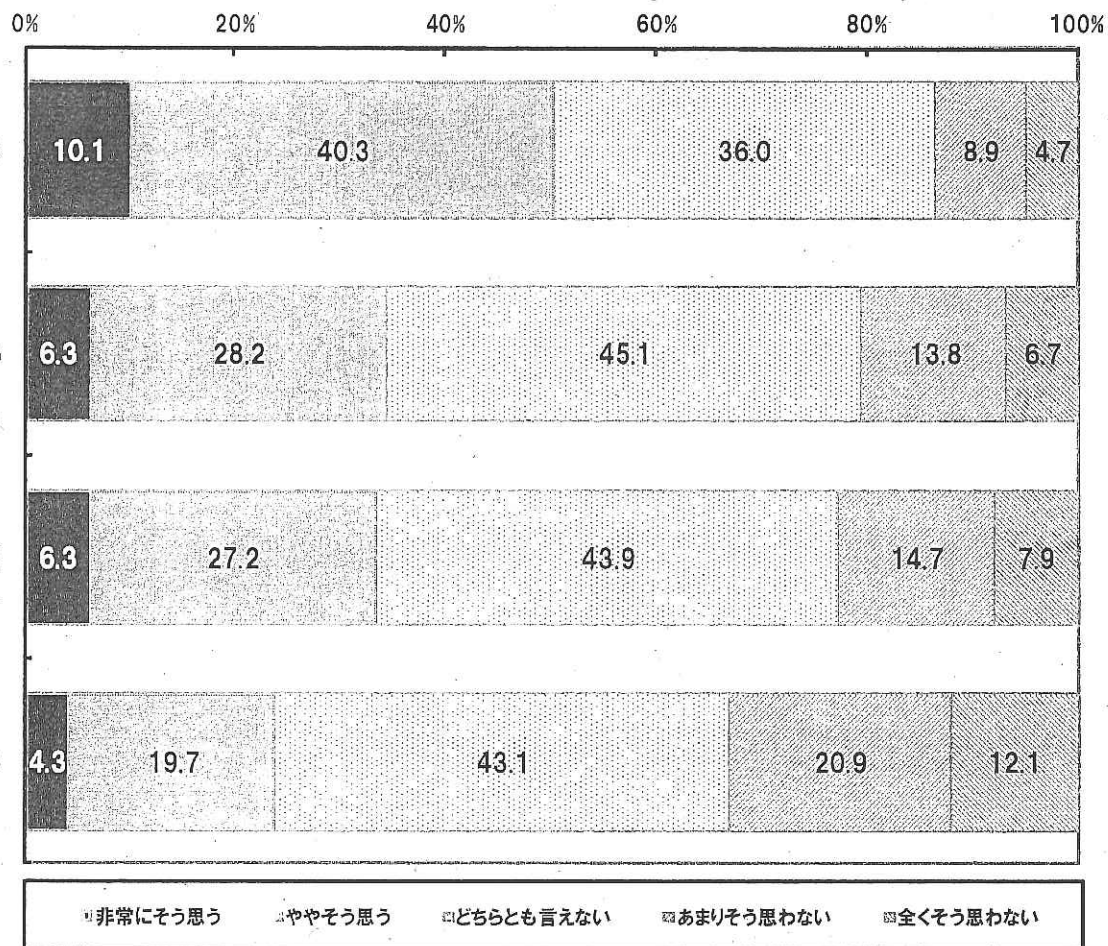
■参加したことがある   ■参加したことはないが、知っている   □知らない

### 3-2-2. イベント評価（「HUMAN LIVE KYOTO」のような学生が企画・運営するイベント）

「HUMAN LIVE KYOTO」のような学生が企画・運営するイベントに対する評価は、『好感が持てる』50.4%、『親近感を感じる』34.5%、『興味がわく』33.5%、『参加してみたい』24.0%となっている（それぞれ『そう思う（計）』の割合）。

『好感が持てる』『親近感を感じる』『興味がわく』の項目では『そう思う（計）』が『そう思わない（計）』を上回り、『好感が持てる』の項目は過半数が同意している。『参加してみたい』の項目では『そう思う（計）』が『そう思わない（計）』を下回っている。

n=1500



| 項目      | そう思う（計） | そう思わない（計） |
|---------|---------|-----------|
| 好感が持てる  | 50.4    | 13.6      |
| 親近感を感じる | 34.5    | 20.5      |
| 興味がわく   | 33.5    | 22.6      |
| 参加してみたい | 24.0    | 32.9      |



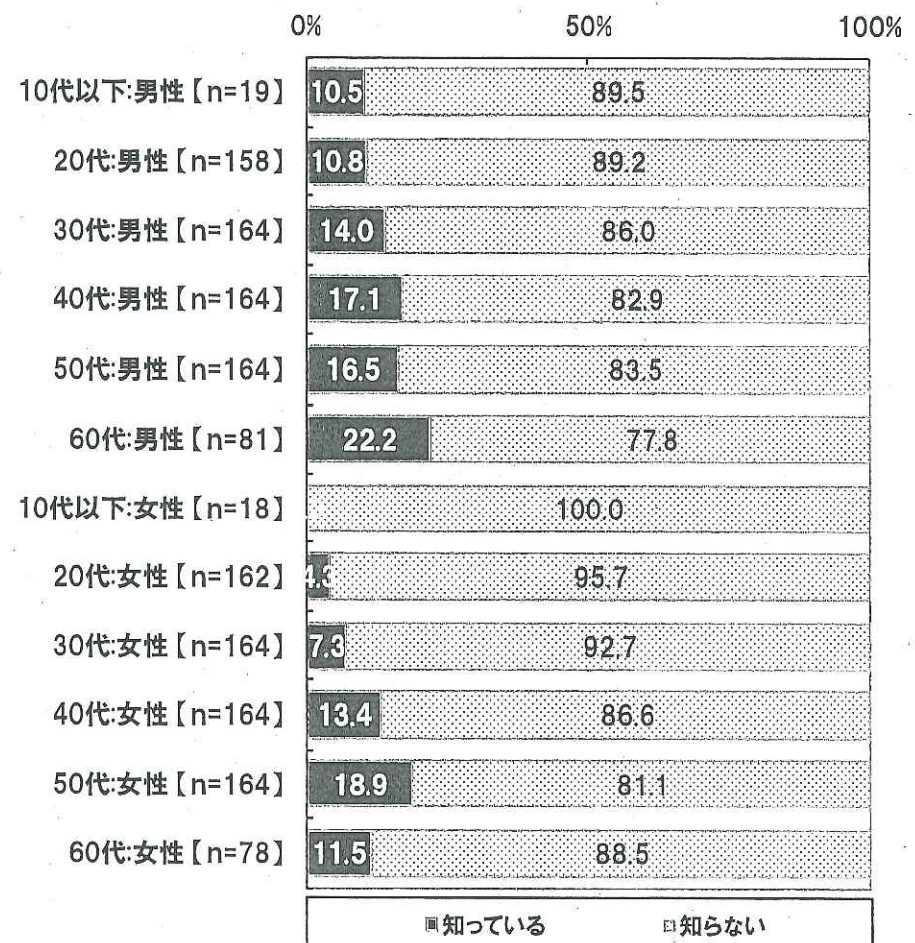
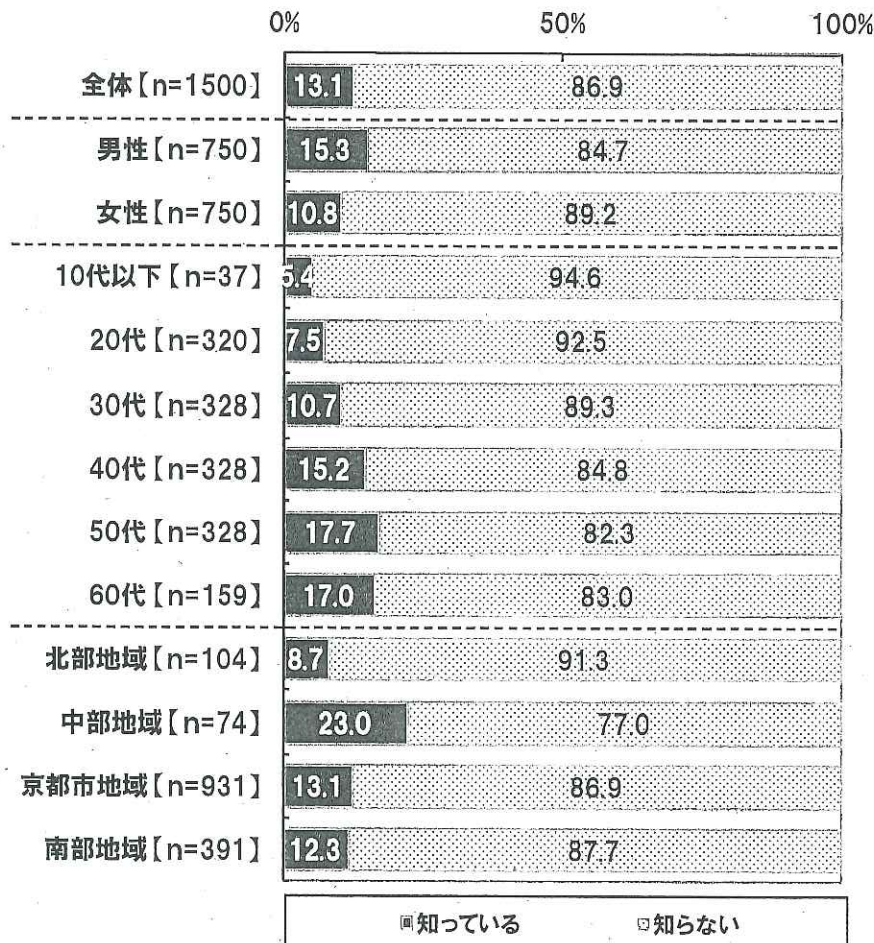
#### 4-1. 取組認知 (街頭啓発活動)

京都府が街頭啓発活動を実施していることの認知率は13.1% (「知っている」の割合) となっている。

性別では、男性は女性よりも4.5ポイント認知率が高くなっている (男性15.3% > 女性10.8%)。

年代別では、高い年代ほど認知率が高い傾向。20代以下の認知率は1割未満 (10代以下: 5.4%、20代7.5%) に留まる。30代で1割 (10.7%)、40代で1割半 (15.2%)、50代以上では2割弱 (50代17.7%、60代17.0%) の認知率となっている。

エリア別では、中部地域は全体よりも9.9ポイント認知率 (23.0%) が高くなっている。

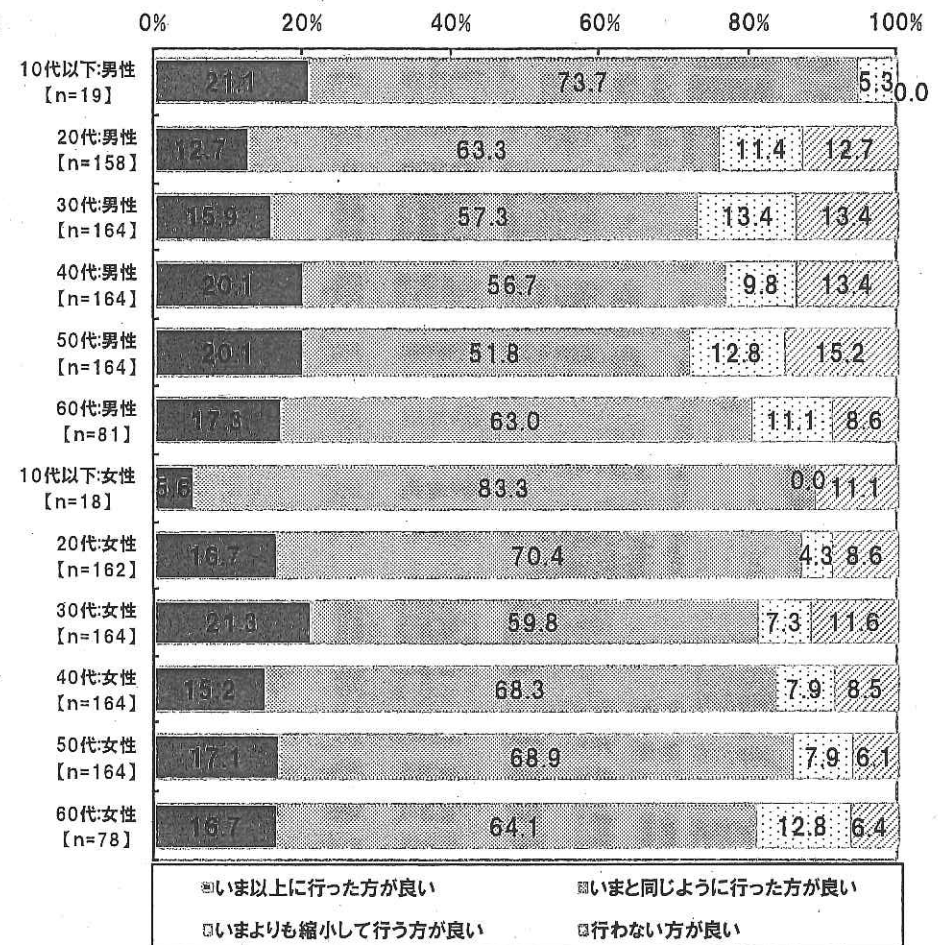
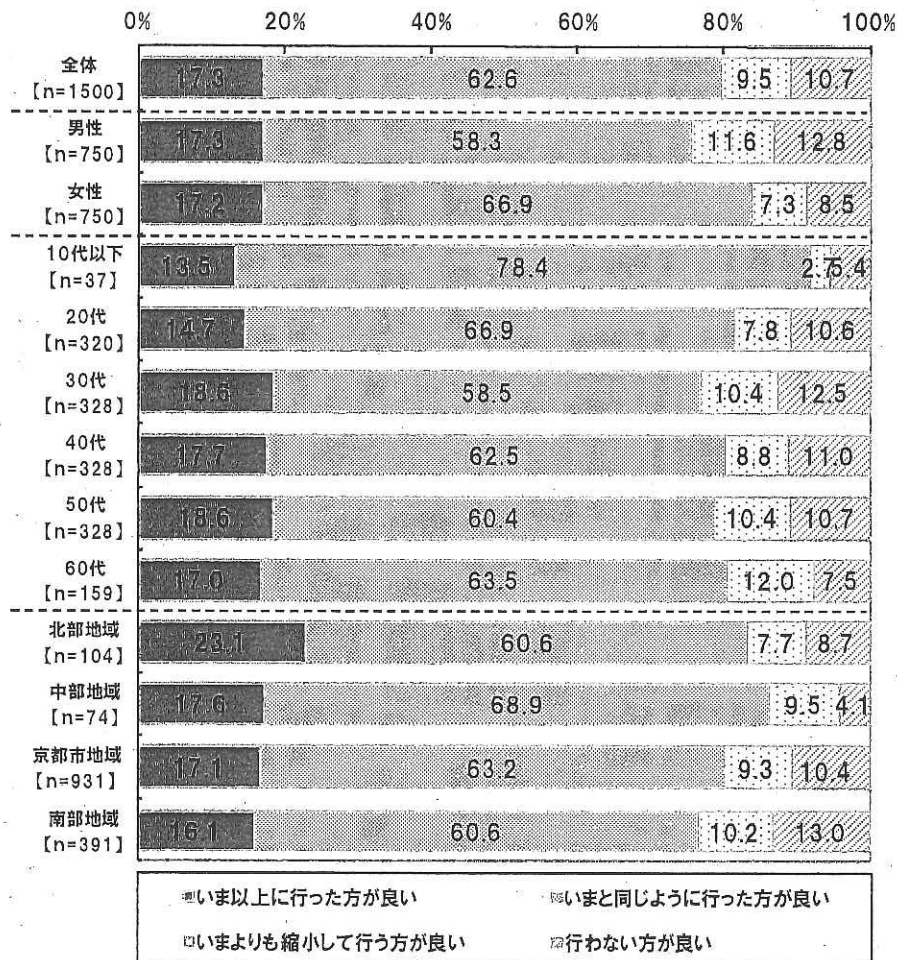




## 4-2.取組継続性評価(街頭啓発活動)

今後も府内一円、関係団体が協力して府民に人権尊重を呼びかける「街頭啓発活動」を行った方が良いと思うかについて、「いまと同じように行なったほうが良い」が62.6%で最多回答となっている。「いま以上に行なったほうが良い」は17.3%、「いまよりも縮小して行うほうが良い」は9.5%、「行わないほうが良い」は10.7%となっている。

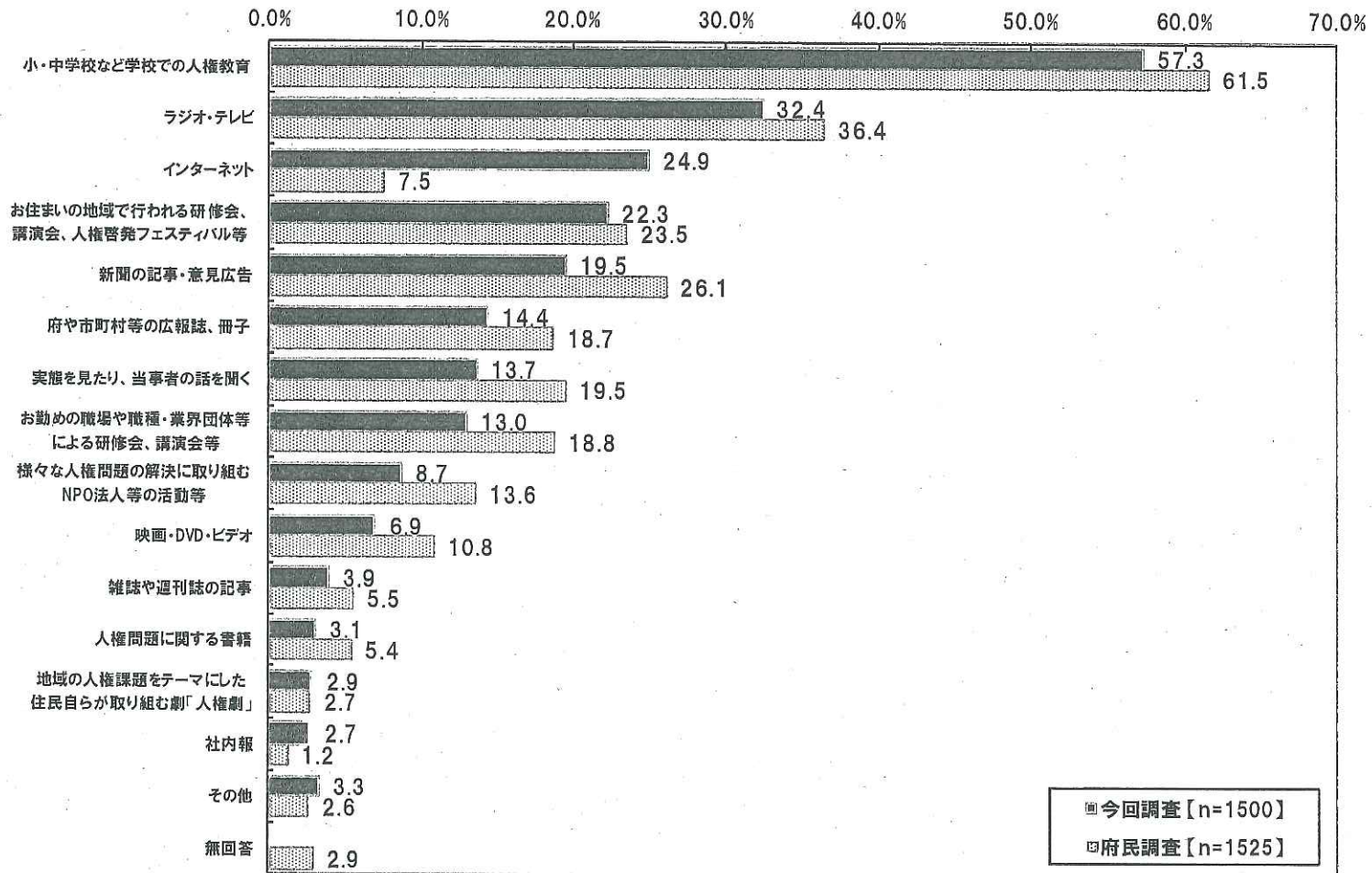
年代別では、10代以下は全体よりも15.8ポイント「いまと同じように行なったほうが良い」(78.4%)が高くなっている。  
性別・エリア別では、特筆すべき傾向は見られない。



## 5-1-2.人権問題について理解や認識を深めるために役立つと思うもの(府民調査との比較)

※平成23年度に実施した「府民調査」と比較している。

なお、「府民調査」については、今回調査(インターネットモニター調査)と異なり、郵送調査の手法をとっている点に留意。



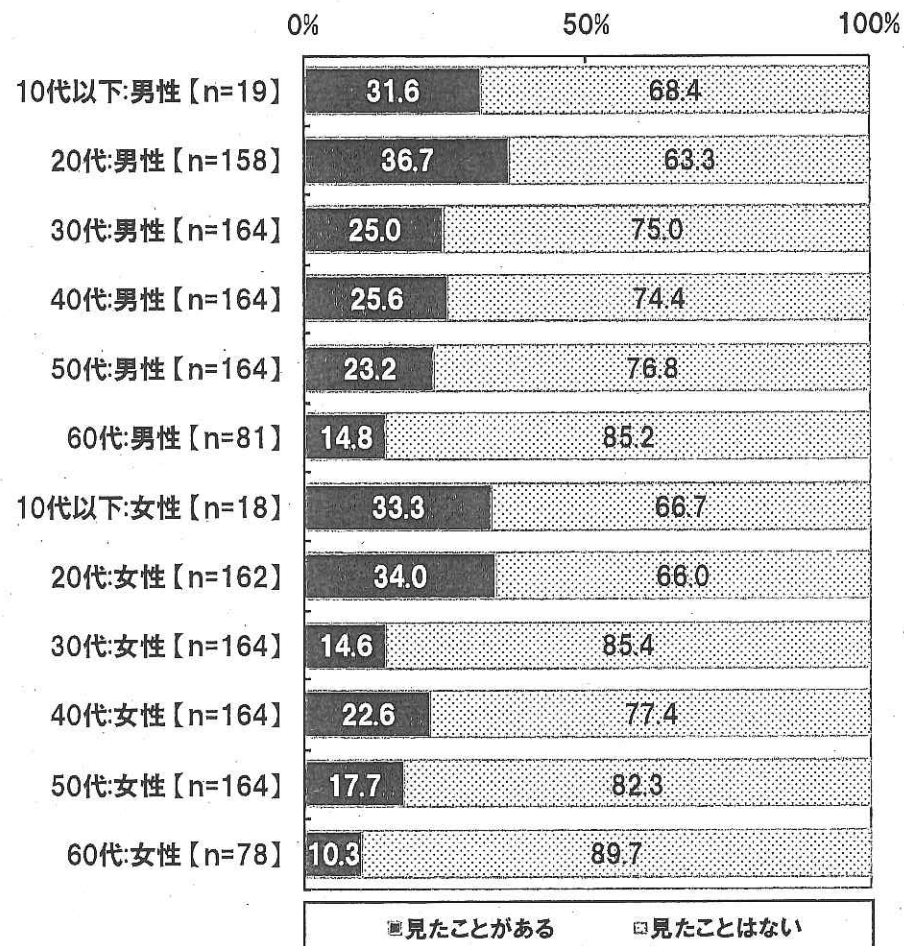
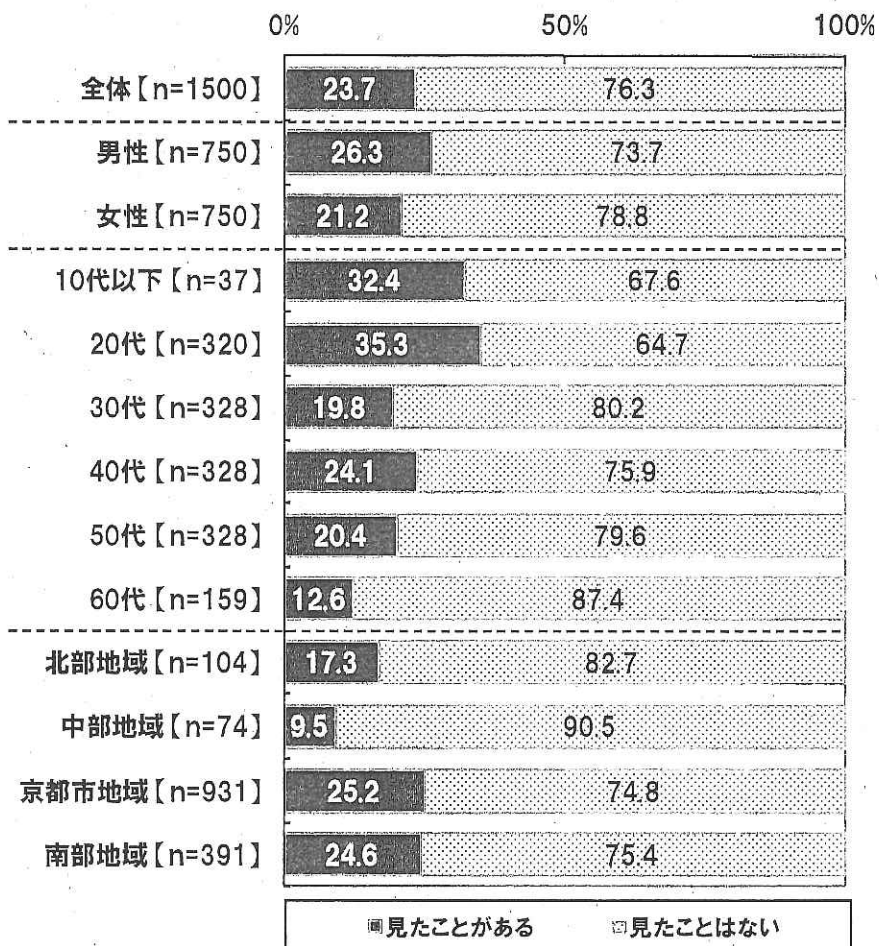
### 5-2-1.目撃経験 (インターネット上の人権侵害)

インターネット上の人権侵害を「見たことがある」割合は23.7%となっている。

性別では、男性は女性よりも5.1ポイント「見たことがある」が高くなっている (男性26.3% < 女性21.2%)。

年代別では、低い年代ほど「見たことがある」が高い傾向。10代以下は3割強 (32.4%)、20代は3割半 (35.3%) となっている。対して、60代は1割強 (12.6%) に留まっている。

エリア別では、中部地域は全体よりも14.2ポイント「見たことがある」(9.5%) が低くなっている。

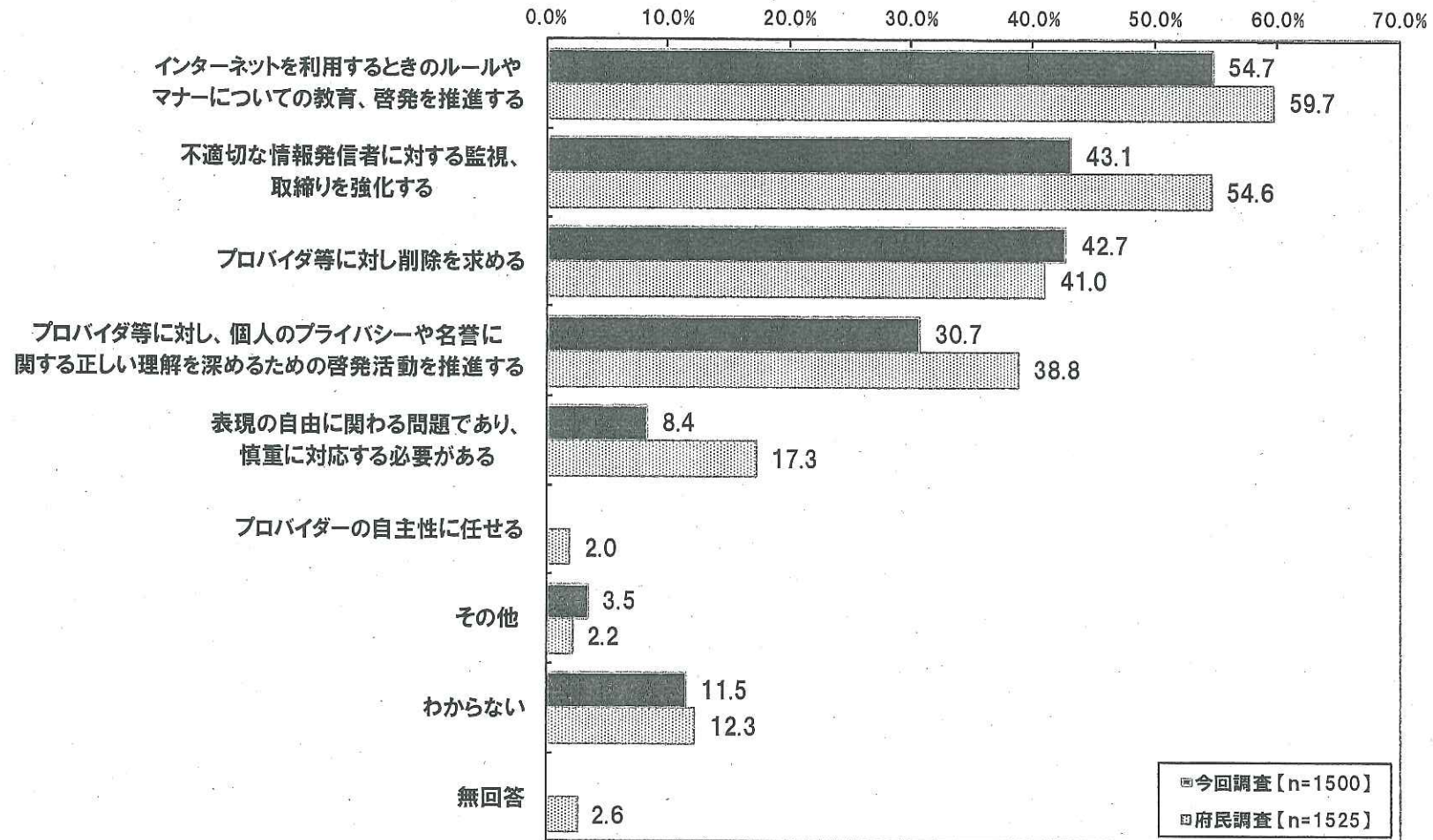




### 5-2-3.インターネット上の人権侵害を改善するためにどうすれば良いか(府民調査との比較)

※平成23年度に実施した「府民調査」と比較している。

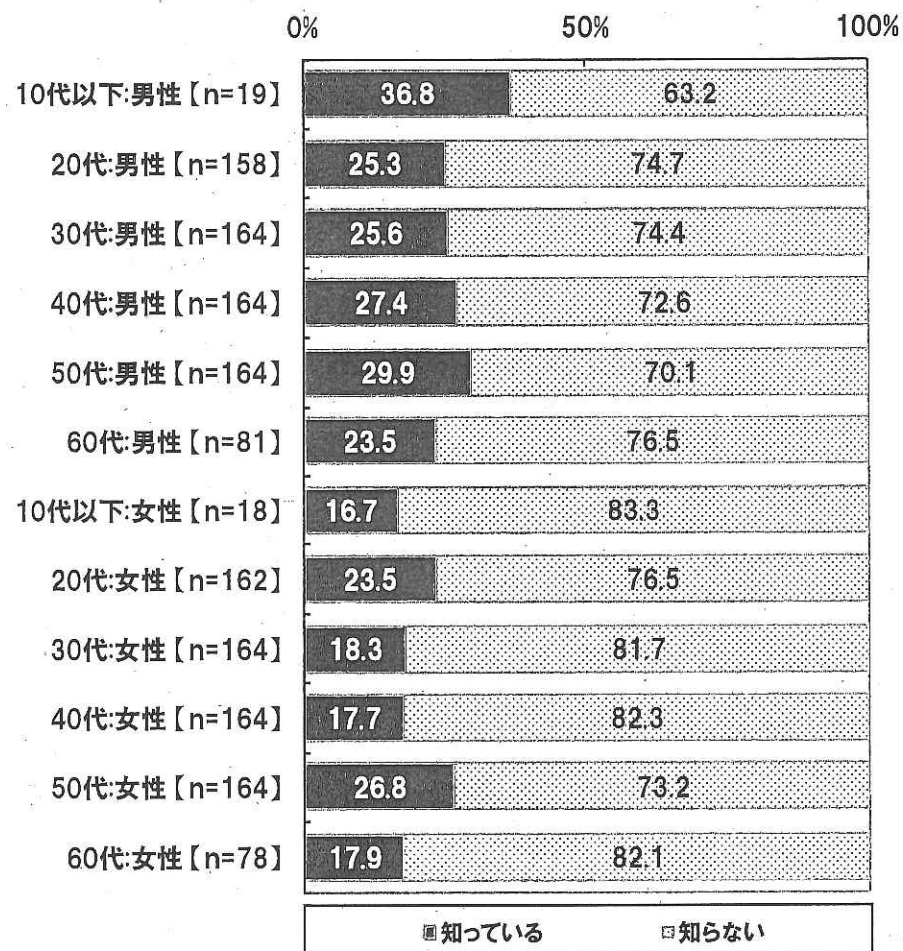
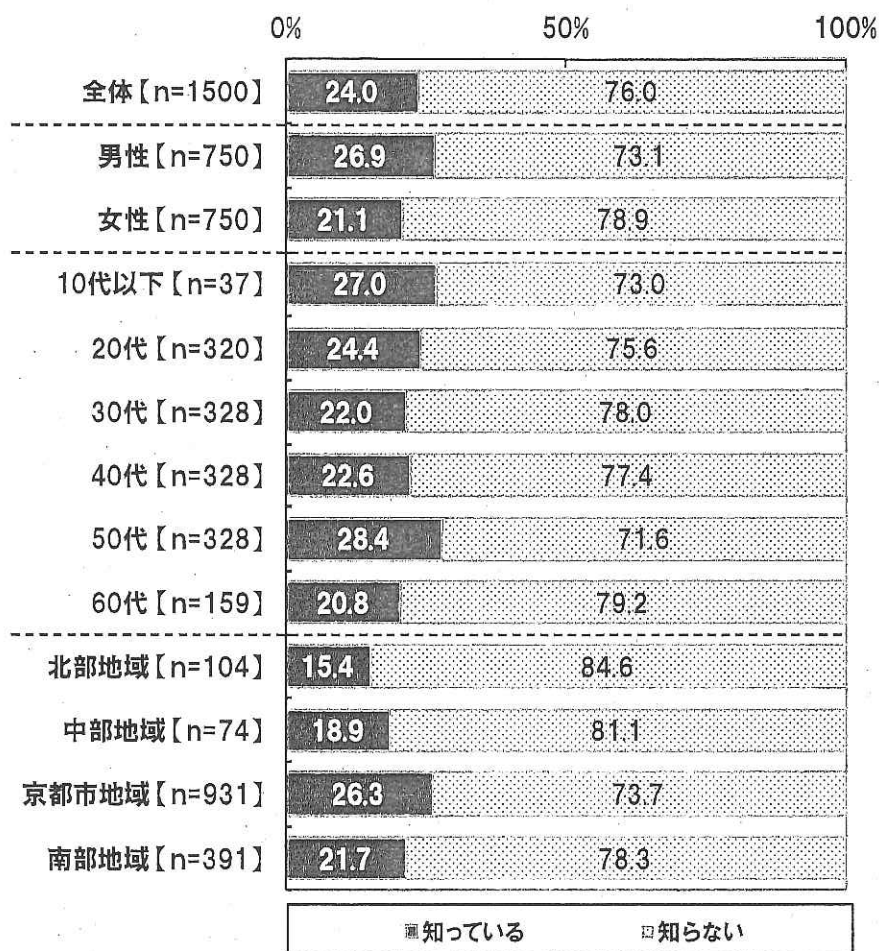
なお、「府民調査」については、今回調査(インターネットモニター調査)と異なり、郵送調査の手法をとっている点に留意。



### 5-2-4. 法律認知 (インターネットにおける人権侵害を防止するための法律)

プロバイダ責任制限法や青少年インターネット環境整備法などのインターネットにおける人権侵害を防止するための法律の認知率は24.0% (「知っている」の割合) となっている。

性別では、男性は女性よりも5.8ポイント認知率が高くなっている (男性26.9% > 女性21.1%)。  
エリア別では、北部地方は全体よりも8.6ポイント認知率 (15.4%) が低くなっている。

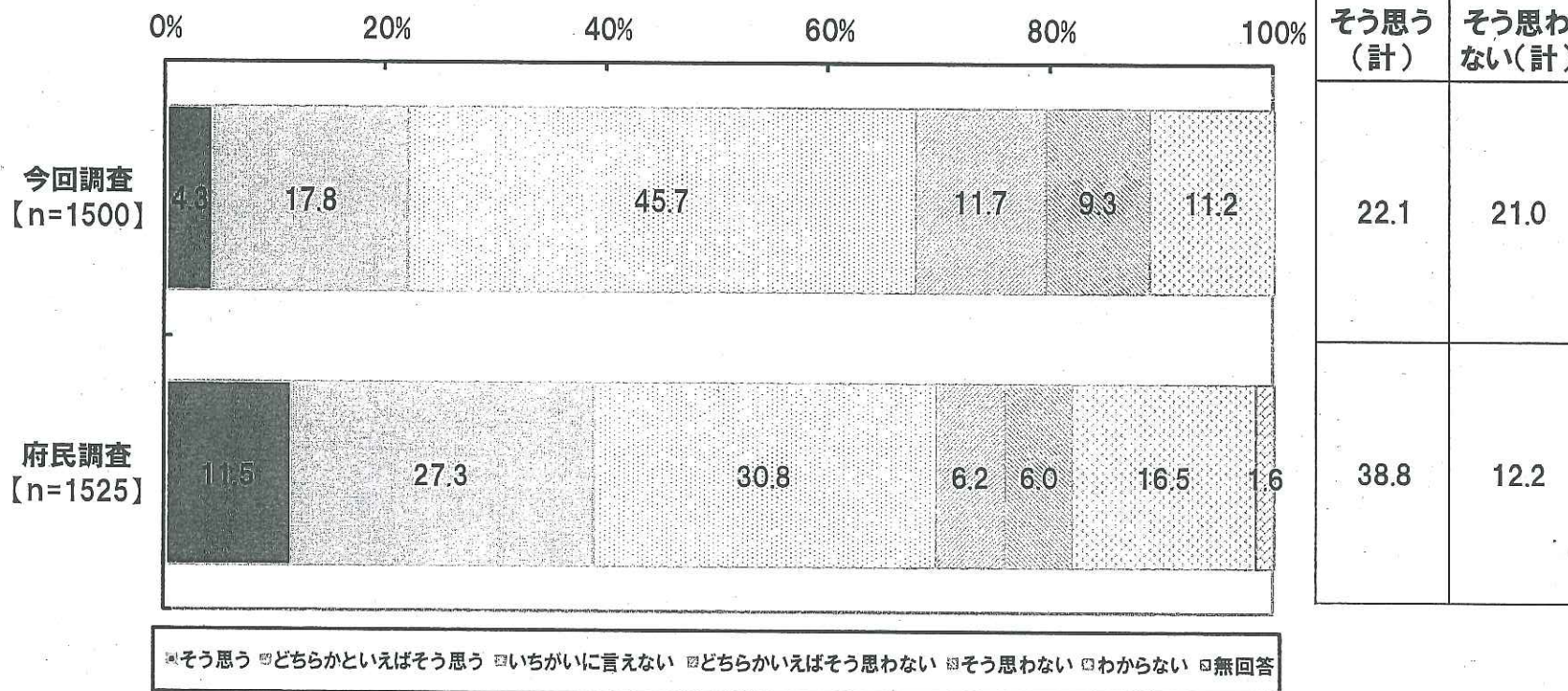




### 5-3-2.人権を取り巻く社会の状況について (1) 府民一人ひとりの人権意識は10年前に比べて高くなっている(府民調査との比較)

※平成23年度に実施した「府民調査」と比較している。

なお、「府民調査」については、今回調査(インターネットモニター調査)と異なり、郵送調査の手法をとっている点に留意。

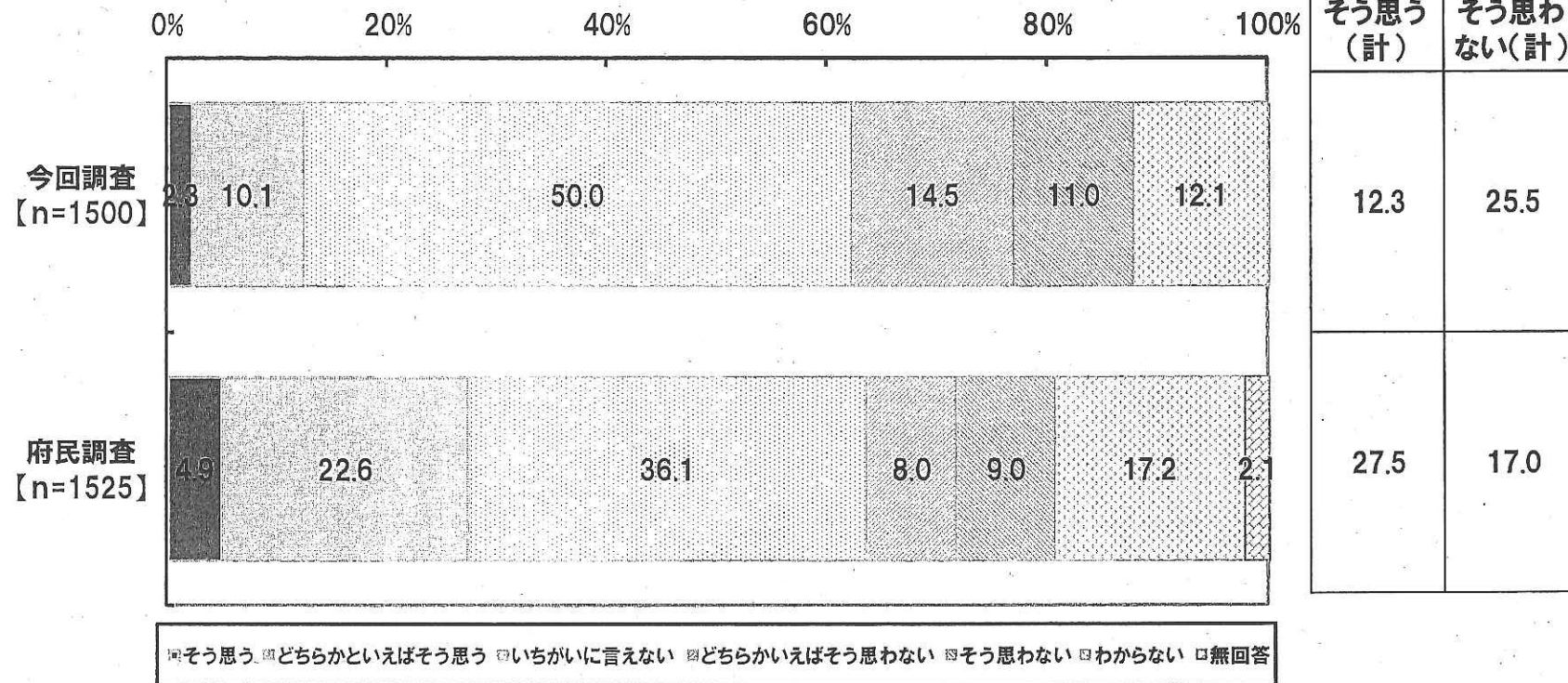




### 5-3-4.人権を取り巻く社会の状況について\_(2) 京都府は人権が尊重された豊かな社会になっている(府民調査との比較)

※平成23年度に実施した「府民調査」と比較している。

なお、「府民調査」については、今回調査(インターネットモニター調査)と異なり、郵送調査の手法をとっている点に留意。



## 5-4-2.最近(5年間)に人権啓発に関するイベント等に参加したことがあるか(府民調査との比較)

※平成23年度に実施した「府民調査」と比較している。

なお、「府民調査」については、今回調査(インターネットモニター調査)と異なり、郵送調査の手法をとっている点に留意。

今回調査と府民調査では以下のように聴取方法が異なる

府民調査:参加有無を聴取した後別質問で参加回数を聴取

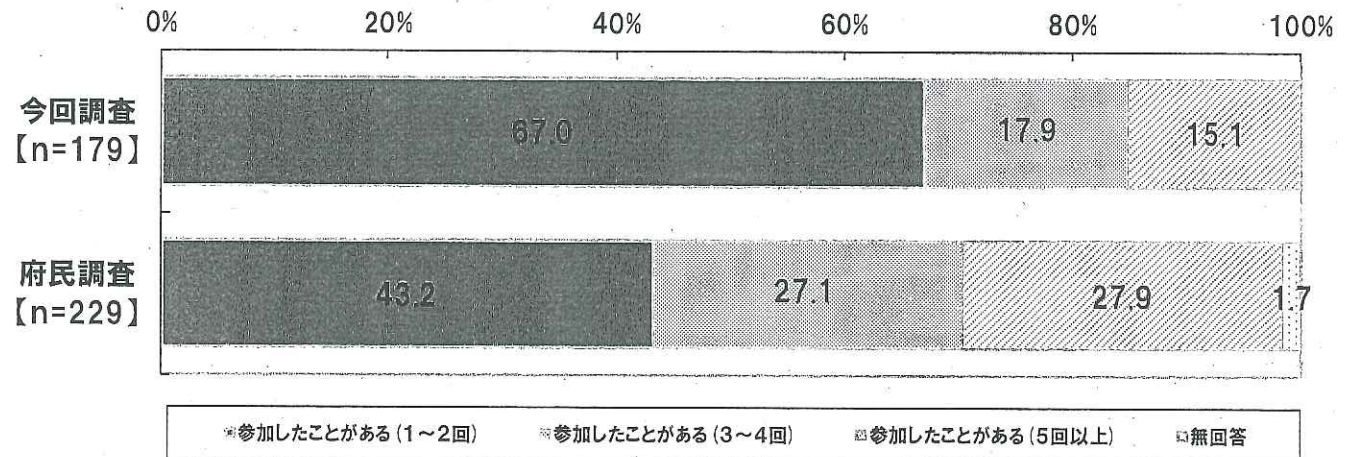
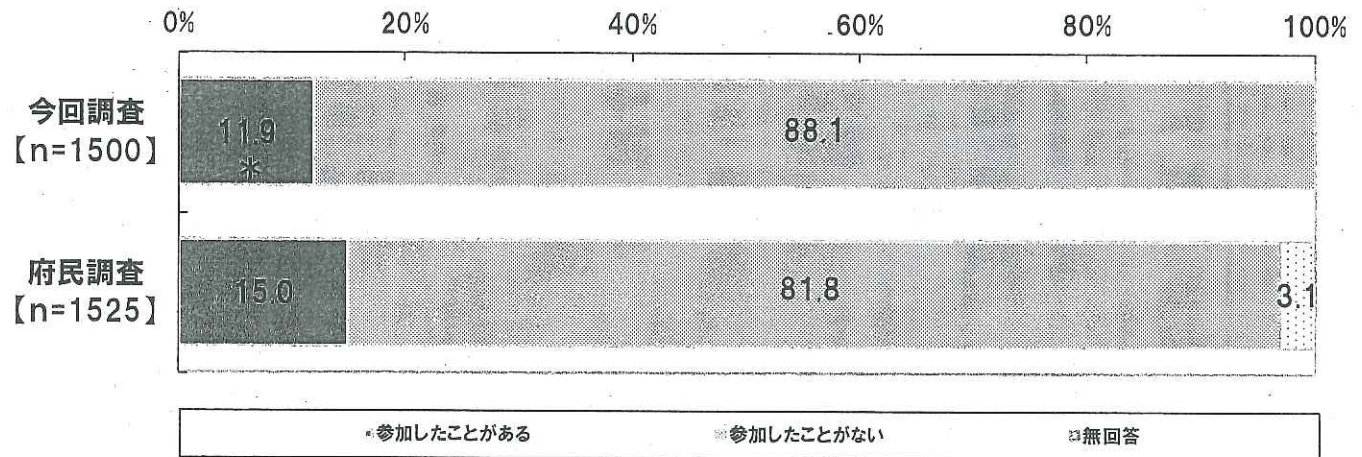
今回調査:参加有無と同質問で参加回数を聴取

\*今回調査の  
「参加したことがある」の値は  
以下の3つの回答割合を足したもの。

[n=1500]

- ・参加したことがある(1~2回):8.0%
- ・参加したことがある(3~4回):2.1%
- ・参加したことがある(5回以上):1.8%

合計:11.9%

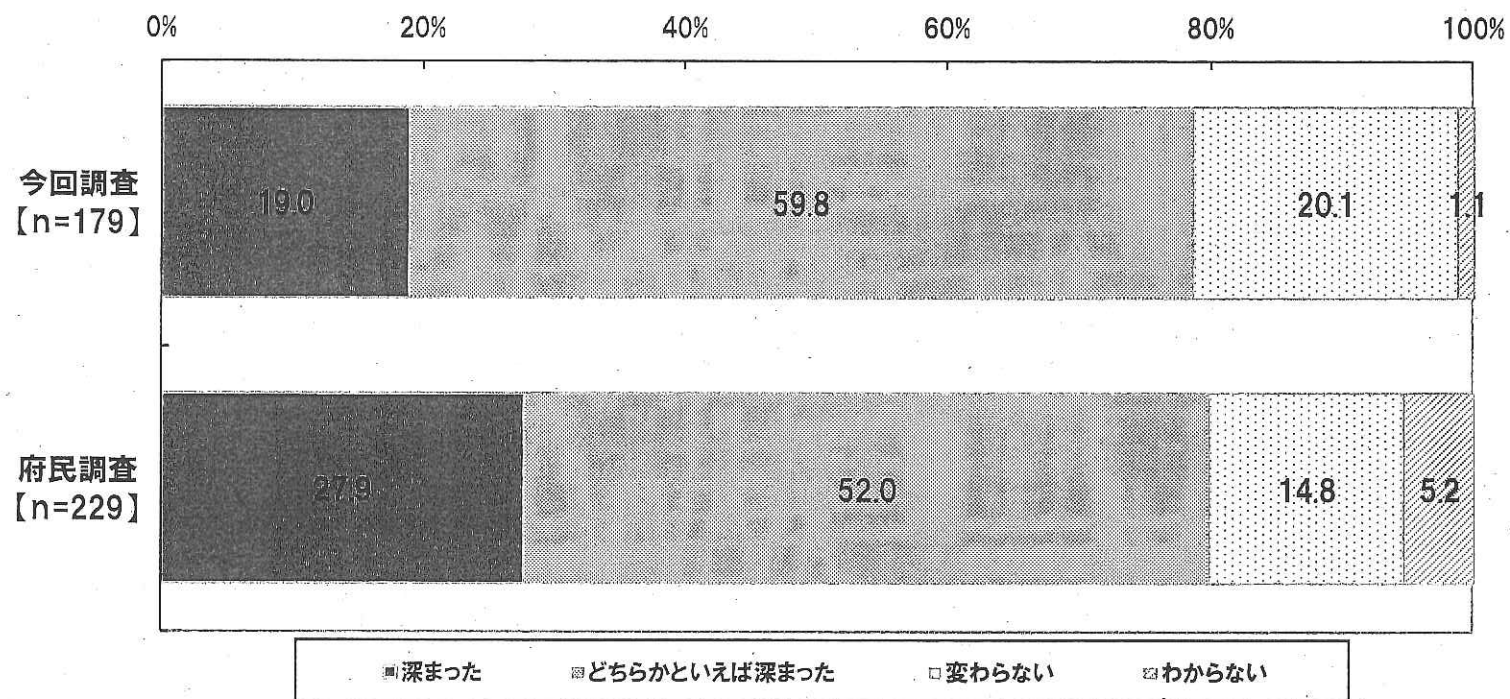




#### 5-4-4.人権や人権問題に対する理解・認識(人権啓発に関するイベント等に参加して深まったか)(府民調査との比較)

※平成23年度に実施した「府民調査」と比較している。

なお、「府民調査」については、今回調査(インターネットモニター調査)と異なり、郵送調査の手法をとっている点に留意。



### 5-5-2.取組認知(国、地方自治体やNPO法人等の民間団体において人権相談の窓口が開かれていること)(府民調査との比較)

※平成23年度に実施した「府民調査」と比較している。

なお、「府民調査」については、今回調査(インターネットモニター調査)と異なり、郵送調査の手法をとっている点に留意。

